

今年の遺物はこちらなんです！



① ^{せんとうき}尖頭器 (槍先に付けられた石器)

縄文時代初め頃 (約 12,000 年前) の石器で、岐阜県が代表的な産地である下呂石でつくられた有茎尖頭器です。



② 木製品

現代の「ちりとり」のような形をしており、柄の部分には穴が開いています。舟の中の水をくみ出す道具に似ていますが、粘土をとるのに利用していたのでしょうか？



弥生土器 ③ ^{たかつき}高杯 ④ ^{かめ}甕

弥生時代の終わり頃 (約 1,700 年前) の土器で、食べ物を盛る高杯や煮炊きに使われる甕があります。



⑤ ^{はじき}土師器 ⑥ ^{つぼ}壺

古墳時代の初め頃 (約 1,600 年前) の土器です。

貯蔵用の壺ですが、外面に煤がしっかり付いているものもあり、煮炊きに使用したのかもしれませんが。



⑤ ^{はじき}土師器 ⑥ ^{かめ}甕

奈良時代 (約 1,300 年前) を中心に使われた土器で、胴の長い大形の甕です。写真の土器以外にも多く出土しましたが、遺構内にあったものは一部で、ほとんどが湿地帯の中に沈んだものでした。

中勢道路 調査ニュース No.57 2011. 10

Chusei News Letter No.57, Archaeological Properties Center of Mie Prefecture

三重県埋蔵文化財センター 中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所
〒515-0325 多気郡明和町竹川503 〒515-2316 松阪市嬉野川北町471
TEL 0596(52) 1732 FAX 0596(52) 7035 TEL 0598(42) 7960 FAX 0598(42) 7961
E-mail: maibun@pref.mie.jp
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/

あいかわせいほう 相川西方遺跡(第4次)発掘調査

調査面積: 2,550 m²

調査担当: 三重県埋蔵文化財センター

調査期間: 平成 23 年 5 月 17 日～平成 23 年 11 月 25 日 (予定)

調査委託: 国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所



- | | |
|----------|------------|
| 1 相川西方遺跡 | 5 池の谷古墳 |
| 2 本宮遺跡 | 6 高茶屋大垣内遺跡 |
| 3 向山遺跡 | 7 四ツ野B遺跡 |
| 4 木造赤坂遺跡 | |

遺跡位置図 1 : 50,000

はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、国土交通省からの委託を受け、一般国道 23 号中勢バイパス建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を進めています。この調査は昭和 63 年度からはじまり、近年は主に旧久居市北部の遺跡を調査しています。本年度の相川西方遺跡 (津市久居相川町) や本宮遺跡 (津市久居野村町) などの調査で旧久居市の調査をすべて終了する予定です。

ここでは相川西方遺跡の第 4 次調査について、これまでの調査の成果を紹介します。

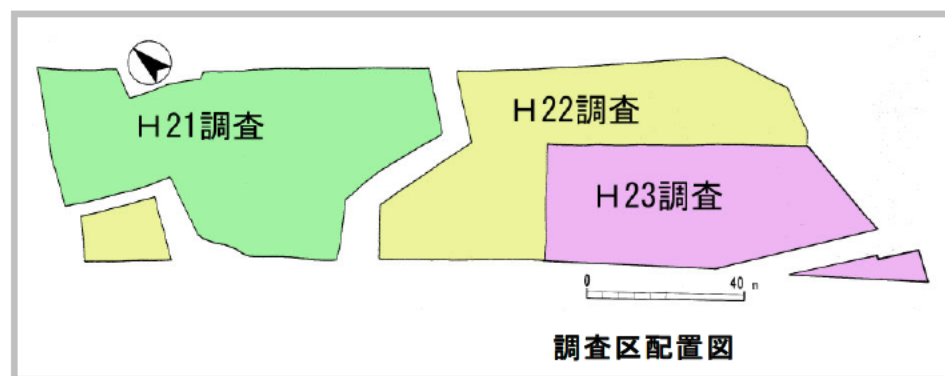


相川西方遺跡 第4次調査

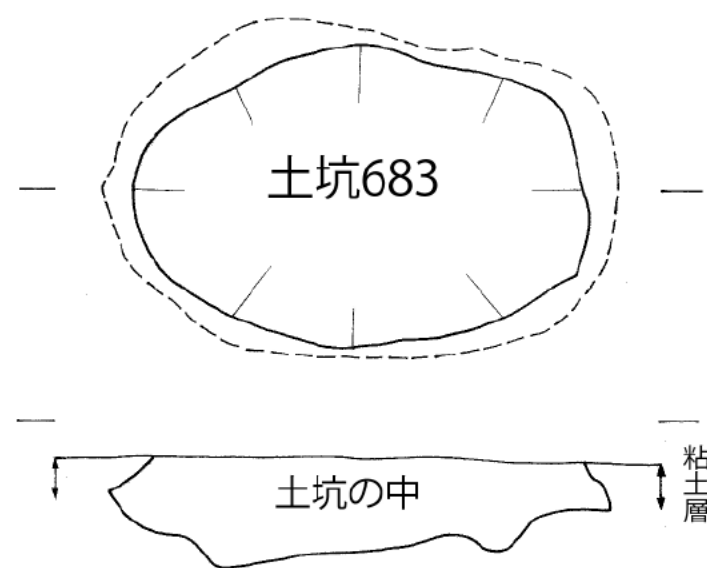
今年の相川西方遺跡の調査では、新たに140あまりの土坑がみつき、平成21年、22年の調査分をあわせると、合計で約650の土坑が確認できました。これらの多くが弥生時代から古墳時代に土器製作のために粘土をとった跡と考えられています。

今年の調査区は以前の調査区よりも低い位置にあり、南側は沼のような湿地帯であった可能性が高いでしょう。昨年の調査区に隣接する北側あたりの面には粘土層が多くみられ、粘土採掘坑と考えられる土坑がいくつか確認できました。

相川西方遺跡の現地調査はこれで終了となります。この3年間で多数の土坑や土器・かご製品・木製品などの遺物がみつきました。これらはこの地域における当時の土器生産のしくみを解き明かす良い資料になると思われます。一方、竪穴住居や掘立柱建物などの集落跡はみつかっておらず、課題となっています。さらに地域の歴史を解明するために調査・研究を進めていきたいと思います。



土坑683



①工区 土坑683

平面図(上)と断面図(下)

*平面図の破線は土坑が袋状に広がっている範囲です。

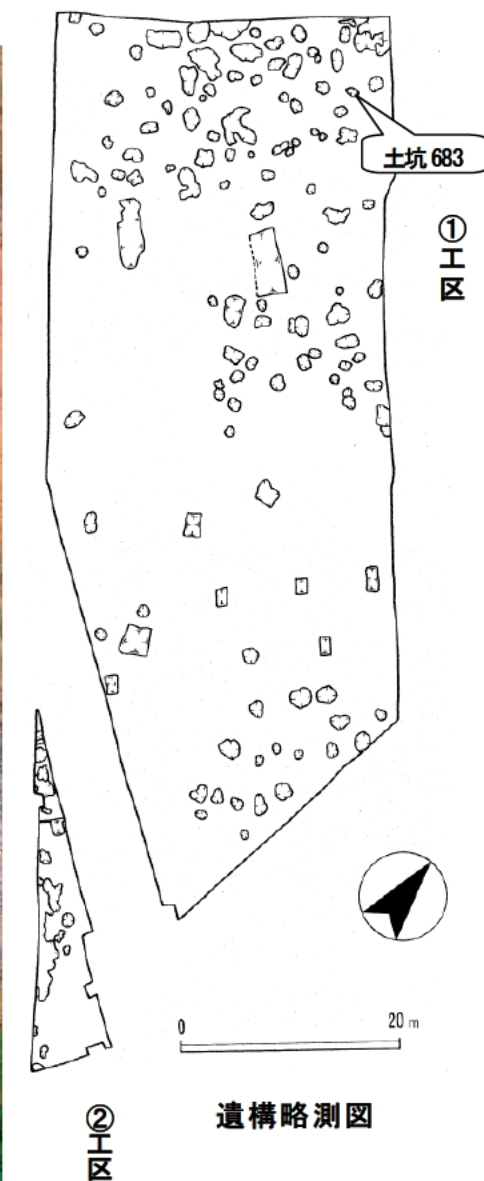


台風で水没した調査区 (9月5日)

今年は台風が多く、3度も調査区が水没しました。



②工区全景 (西から撮影)



遺構略測図



調査区北隅に広がる土坑群